（小10）鹿児島市立吉野小学校
令和6年3月6日

令和５年度　学校評価　自己評価書（後期）

１　学校の重点目標

○　基礎学力を身に付け、自ら考え判断・表現し、学び続ける児童の育成
○　人や物を大切にし、規範意識や社会性、基本的な生活習慣を身に付けた児童の育成
○　健康・安全に対する自己管理能力を高め、体力・気力つくりに励む児童の育成
○　ふるさとと自分に誇りをもち、粘り強く最後まで頑張り抜く児童の育成

２　課題と改善策

	評　価　項　目	職員	評価結果と改善方策
かしこい子	分かる授業ができているか。	3.1	・　チャレンジタイムが土曜の朝活動から創意の時間に動いたことで実施回数は減ったが、思考力を高める問題に取り組むことはできている。Ｗｅｂ問題は、計画的に、単元ごとに教材共有フォルダに入っているので、効果的に活用していく。 ・　今年度は校内研修で授業実践を通して、子供たちの自己有用感についてアプローチを見いだすことができた。また、他教科や他単元でも成果を活用していく必要がある。
	共通実践事項に従って，しつけや授業ができているか。(「聞く」指導の徹底、「めあて→山場→まとめ」等)	3.0	
	「家庭学習の手引き」を活用して，授業と連動した家庭学習に取り組ませているか。	3.0	
	児童自ら課題を見つけ，主体的に解決を図る問題解決的な学習を展開するとともに，体験活動を重視した授業に取り組んでいるか。	2.9	
	学力向上の取組として、「かごしま学力向上支援Webシステム」やチャレンジタイムを効果的に活用しているか。	2.3	
	児童の実態を把握し，個に応じた学習指導の実践に努めているか。	3.2	
	校内研修に対して，課題意識をもって主体的に取り組んでいるか。	3.3	
	各種委員会や学年会等で把握した児童に関する課題に対し，学校全体で共有し，解決に向けた取組がなされているか。	3.3	
やさしい子	全職員の共通理解のもと，「廊下歩行」「あいさつ」「トイレスリッパ」「靴棚の靴」等の実践がなされているか。	2.8	・　清掃をよく頑張っている。今後は、学級や学年内での集団ではなく、縦割り活動を通して、教え合いながら進めるのも「やさしい」児童へとつながるのではないかと考える。 ・　廊下歩行については、雨天で校庭利用ができないときに走り回る児童が多い。なぜ歩かなくてはいけないのかという理由を考えさせながら、全員共通した指導を進めていく。
	教児一体となって，清掃活動に取り組んでいるか。	3.4	
	年間計画に従って学校緑化活動に取り組み，生き物を大切にする心を育てることができているか。	3.1	
	考え議論する道徳の授業や，道徳性を育む指導を行っているか。	3.0	
	児童がお互いのよさを認め合い，相手の立場を考えた行動をとろうとする意識を高める人権教育に取り組んでいるか。	3.1	
	計画的に読書指導を行い，読書意欲や読書の質を高めることができているか。	3.1	
	児童に基本的な生活習慣を身に付けさせているか。	3.1	
たくましい子	チャレンジかごしまの取組や外遊びの励行等を通して，児童の体力向上や運動に親しむ態度の育成が行われているか。	2.9	・　感染症対策の緩和に伴い、学級での体力づくりが増加傾向にある。一校一運動について、児童主体の活動を取り入れながら進めていく。 ・　児童の多くが「交通のきまりを守っている」と自己評価しているが、様々な情報が寄せられている。安全に関して一つ一つの事例を「なぜいけないのか。」という意義をとらえさせながら指導していく。
	児童の病気やけがの予防・治療や健康作りに対する意識を高め，実践しようとする指導を行っているか。（手洗い・うがい，食事，睡眠等）	3.3	
	給食の時間を通して，感謝の心の涵養や好ましい人間関係作りを図ることができているか。（食事マナー，残食0など）	3.1	
	校内，家庭，地域での安全な過ごし方，不審者対応，交通安全などについて，計画的・日常的に指導し，児童の「自分の命は自分で守る」という意識を育てることができているか。	3.4	
その他	職場は，何でも言える雰囲気があるか。	3.3	・　行事等でチームの力を発揮することができた。補教についても、お互い様の気持ちでスムーズに対応することができている。
	職場は楽しいか。	3.2	

↑４段階評価による平均値

３　次年度に向けての取組

○　共通実践事項の取組を職員全体で再度意識し、全員が同じ指導を徹底する。
○　学年部を中心に、職員のアイデアを互いに出し合う機会を増やし、何でも話し合える雰囲気づくりに努め、職員同士のつながりを意識しながら組織力を高める。